雑誌『主婦の友』に見られる大正期の新中間層の主婦像について

About the life of the fousewife of the middle class of magazine Taisho period watched by the friend of the housewife

清水彩加・夫馬佳代子・杉原利治

Ayaka Simizu, Kayoko Fuma and Tosiharu Sugihara

1. はじめに

大正期の日本は，明治時代における日露戦争の勝利にともない国際的地位を確立した時代であり，また西欧の文化や科学技術をさかんに取り込み，西欧的な物を異質としない特徴をもつ時代でもある。このような時代の中で企業が発達し，俸給生活者である「新中間層」という人々が誕生したとされている。

本研究では，こうした背景から生まれた新たな新中間層の主婦の生活運営術を，雑誌『主婦の友』[1] の掲載記事をもとに，特に当時頻繁に掲載される「廃物利用」に着目して分析し，大正期の新中間層の主婦像と家庭生活像を明らかにしようと試みたものである。

ところで，新中間層とは，第一次世界大戦後に新たに形成された中流階級の人々である。新中間層の特徴としては，労働は肉体労働や生産物を作るものではなく，頭脳労働であること，所得形態は俸給であること，社会階級では資本家と労働者の中間であること，生活水準の位置では中位ということ等があげられる。新中間層は欧米の合理的な生活を取り入れ，文化的な生活を送ることも特徴として挙げられる。大正 9 年における新中間層は，職業としては，管理・軍人・教育関係者が主であるが，問題点としては賃金格差により，ほとんどの新中間層は薄給であり経済困難に陥ったことがあげられる。

大正時代の家庭経済の特質としては，大正 7 年から大正 8 年にかけて第一次世界大戦が終結したため大戦景気が終わり，社会は物価騰貴に陥った点がある。特に政府の積極政策により，大正 9 年から大正11年には大恐慌が引き起こされ慢性不況の時代に突入する。そこで考え出された生活防衛策が，「代用食の奨励」[2]，「勤労を尚ぶ訓令」[3]，「生活改善同盟」[4] などの政策である。新中間層はこれらの訓令をうけて，生活の全般を変革する必要に迫られたのである。

前報[5]では，既に昭和初期の統制下における主婦の生活像を雑誌『主婦の友』の掲載記事をもとに分析したが，上記で述べた大正期の恐慌の中での中間層の主婦像についても，昭和期の統制下とは異なる主婦像として捉えることができたので報告する。

2. 研究目的

大正期は物価騰貴や恐慌下のもと新中間層が誕生し，「主婦」が家庭を運営するという生活形態の転換期でもあった。このような時代の中で人びとは如何なる生活の価値観をもち，生活を創造したのであろうか。

節約生活の記事の分類

巻号	出版年	題名	記者名	生活改善運動	合理的な生活に関する語	節約に関する語
第2巻第5号	1918年(大正7年)5月号	生活難にくよくよせぬ生活法	櫻橋絢子		時間の経済を考えた行動	
第2巻第5号	1918年(大正7年)5月号	戦時に於ける米国家庭の食物経済	横井時敬	家庭生活を改良		パンに麩を混ぜる・日本も見習う
第2巻第5号	1918年(大正7年)5月号	物価騰貴に処する家政の執り方	五島千代磯		主婦の時間を生産的に使う	
第2巻第5号	1918年(大正7年)5月号	家人の大量を増すが主婦第一の務	堀内文次郎			
第2巻第5号	1918年(大正7年)5月号	安価生活を実行せんとする人々へ	頴田豊	○	西洋の粗末な食事を見習う	肉は骨付き肉を買いだしをとる
第2巻第5号	1918年(大正7年)5月号	理想的の安価生活法は玄米食に限る	石塚右玄	半搗米に塩辛い野菜をとる		
第2巻第5号	1918年(大正7年)5月号	安物買い新の経済にあらず	佐治貫然			高くても上等品がよい
第2巻第5号	1918年(大正7年)5月号	経済と衛生とを兼ねた二食主義の実験	山脇玄	○		二食主義は二割の節約
第2巻第5号	1918年(大正7年)5月号	大人の古着を利用して出来る子供の洋服	左近まつ子	洋服にすると手入れの手間が省ける		夫のシャツを縮めて作る
第2巻第5号	1918年(大正7年)5月号	物価騰貴に困らぬ世帯の遣繰法	田中米子			石炭の変わりに炭の古木を使う

本研究では，中間層の主婦に注目し，主婦の生活創造・節約意識を雑誌『主婦之友』の掲載記事の分析を通して，大正時代における具体的な主婦像を明らかにしていく。

調査対象文献としては，雑誌『主婦之友』大正６(1917) 年・第１巻第３月号から大正15年 (1926) 年・第10巻１月号を分析対象文献とする。分析対象記事を抽出するキーワードは①節約に関する語(経済的・廃物利用・経済的で便利)，②主婦，③女中，④生活改善とする。

記事の分析方法は「『主婦之友』大正期総目次」[6] の目次キーワードをもとに抽出した記事の内容を分類し，さらに記事数の変遷を物価騰貴が起こる前年の大正６年から慢性不況に陥る大正11年までの掲載記事を分類し，主婦に求められた役割について分析を試みた。これらの記事内容の検証を通して，時代が求める主婦像を明らかした。

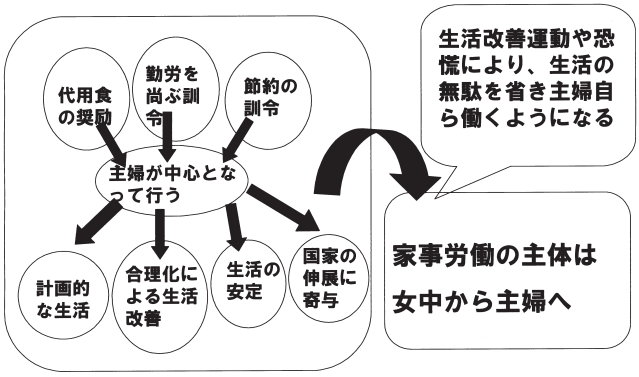


図１．生活改善運動の背景

3.　大正時代の特質と生活改善運動

大正６年に起こった第一次世界大戦は，日本の企業を潤わせ大戦景気をむかえた。しかし，大正７年には第一次世界大戦は終結し，戦争で潤ってきた日本の景気は後退し始め，物価騰貴を引き起こした。また，先ほど述べたように大正９年から大正11年には大恐慌が起こり，慢性不況に陥った。そこで政府は生活を内から改善し，生活の合理化・生活の様式を単純化しようと生活改善運動を行った。生活改善運動は，文化的な生活意識が芽生え始めた新中間層を中心に行われたのである。

具体的な生活改善運動は「代用食の奨励」「勤労を尚ぶ訓令」「節約の訓令」であり，新中間層は家庭の中から改善するということから，主婦が中心となって行われた。

また，生活改善運動の目的は，計画的な生活を送ること，合理化による生活改善を図ること，生活の安定を実現すること，国家の伸展に寄与することとされた。

このように生活改善運動や恐慌により，生活の無駄を省き主婦自らが働くようになる家庭生活の形態が誕生したのである。以前では女中を雇って家事労働を運営していたのに対して，生活改善運動が始まってからは，家事労働の主体は女中から主婦へと変遷していくのである。

4.　雑誌『主婦之友』における主婦に関する掲載記事数の変化

雑誌『主婦之友』における主婦やその当時の節約の知恵・生活改善などに関する記事数はどのように変化したのかを以下の表に示す。項目は年・巻号・総記事数・主婦・女中・生活に関する記事 (廃物利用・節約・家計・貯金・内職・買い物・教育資金・保険・衣・食・住・子育て) とする。

表１．雑誌『主婦之友』における主婦の節約の知恵・生活改善などに関する記事数

年	巻　号	総記事	主婦	女中	生活に関する記事	生活に関する記事の内訳											子育て
						廃物利用	節約	家計	貯金	内職	買い物	教育資金	保険	衣	食	住	
大正６年	第１巻第１号３月号	33	4	1	5	0	0	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0
大正６年	第１巻第２号４月号	37	3	2	8	0	0	5	0	1	0	0	0	1	0	1	1
大正６年	第１巻第３号５月号	38	4	2	10	1	0	5	0	1	0	0	0	2	0	1	1
大正６年	第１巻第４号６月号	40	2	1	9	1	0	5	0	2	0	0	0	1	0	0	1
大正６年	第１巻第５号７月号＊資料①③	70	0	1	37	2	3	10	9	9	2	0	0	1	0	1	0
大正６年	第１巻第６号８月号	38	1	0	7	0	1	4	0	0	0	0	0	2	0	0	6
大正６年	第１巻第７号９月号	38	3	1	13	2	1	5	1	0	0	0	0	2	1	1	3
大正６年	第１巻第８号10月号＊資料⑤	56	3	1	28	1	2	10	0	9	2	0	0	2	1	1	1
大正６年	第１巻第９号11月号	35	1	0	6	0	0	0	3	0	1	0	0	0	2	0	1
大正６年	第１巻第10号12月号＊資料④	43	3	0	16	0	3	0	2	3	1	0	0	1	2	4	1
大正７年	第２巻第１号１月号	58	2	0	3	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
大正７年	第２巻第２号２月号	37	1	0	6	0	0	3	0	0	0	1	0	2	0	0	9
大正７年	第２巻第３号３月号	33	1	0	14	1	1	0	0	12	0	0	0	0	0	0	4
大正７年	第２巻第４号４月号	43	2	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
大正７年	第２巻第５号５月号＊資料②	36	2	0	19	1	5	3	0	1	2	0	0	1	4	2	1
大正７年	第２巻第６号６月号	32	1	0	6	2	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
大正７年	第２巻第７号７月号	34	1	0	14	1	2	0	3	5	0	0	0	1	2	0	0
大正７年	第２巻第８号８月号	32	0	0	4	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
大正７年	第２巻第９号９月号	31	2	0	8	2	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	1
大正７年	第２巻第10号10月号	52	7	0	6	1	2	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0
大正７年	第２巻第11号11月号	39	0	1	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
大正７年	第２巻第12号12月号	40	0	0	9	0	1	3	0	3	0	0	0	0	1	1	0
大正８年	第３巻第１号１月号	40	2	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
大正８年	第３巻第２号２月号	39	1	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
大正８年	第３巻第３号３月号	39	1	0	5	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1	0	10
大正８年	第３巻第４号４月号	48	1	0	6	0	1	1	0	2	0	0	0	1	1	0	0
大正８年	第３巻第５号５月号	39	1	0	9	0	0	1	0	7	0	0	0	0	1	0	1
大正８年	第３巻第６号６月号	38	1	0	3	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	4
大正８年	第３巻第７号７月号	47	4	4	10	0	0	0	1	6	0	0	0	2	0	1	2
大正８年	第３巻第８号８月号	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
大正８年	第３巻第９号９月号	43	3	0	6	0	2	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0
大正８年	第３巻第10号10月号	39	0	0	4	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大正８年	第３巻第11号11月号	39	2	0	7	0	0	0	0	5	0	0	0	1	0	0	0
大正８年	第３巻第12号12月号	42	0	0	9	0	5	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0
大正９年	第４巻第１号１月号	44	6	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
大正９年	第４巻第２号２月号	36	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4
大正９年	第４巻第３号３月号	35	1	1	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	3
大正９年	第４巻第４号４月号	39	1	0	7	0	3	0	0	1	0	0	0	1	1	1	0
大正９年	第４巻第５号５月号	35	1	0	5	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	1	3
大正９年	第４巻第６号６月号	37	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
大正９年	第４巻第７号７月号	48	1	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	3
大正９年	第４巻第８号８月号	38	1	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	4
大正９年	第４巻第９号９月号	38	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0
大正９年	第４巻第10号10月号	52	8	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	3
大正９年	第４巻第11号11月号	41	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	4
大正９年	第４巻第12号12月号	35	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
大正10年	第５巻第１号１月号	45	1	0	5	0	1	0	0	3	0	0	0	1	0	0	2
大正10年	第５巻第２号２月号	37	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	3
大正10年	第５巻第３号３月号	29	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	2
大正10年	第５巻第４号４月号	47	3	0	5	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	2
大正10年	第５巻第５号５月号	43	2	0	6	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4	2
大正10年	第５巻第６号６月号	42	0	0	7	0	0	0	0	6	0	0	0	1	0	0	2
大正10年	第５巻第７号７月号	53	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3
大正10年	第５巻第８号８月号	46	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
大正10年	第５巻第９号９月号	41	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
大正10年	第５巻第10号10月号	49	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
大正10年	第５巻第11号11月号	53	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	1
大正10年	第５巻第12号12月号	45	1	3	3	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0
大正11年	第６巻第１号１月１日号	53	4	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1
大正11年	第６巻第２号１月15日号	47	8	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大正11年	第６巻第３号２月１日号	49	2	0	4	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0
大正11年	第６巻第４号２月15日号	50	4	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0
大正11年	第６巻第５号３月号	46	2	0	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	3
大正11年	第６巻第６号４月号	58	3	0	5	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	2	4
大正11年	第６巻第７号５月号	59	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
大正11年	第６巻第８号６月号	58	1	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0
大正11年	第６巻第９号７月号	59	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
大正11年	第６巻第10号８月号	57	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
大正11年	第６巻第11号９月号	58	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
大正11年	第６巻第12号10月号	61	8	0	7	0	2	0	0	2	0	0	0	1	0	2	1
大正11年	第６巻第13号11月号	52	4	0	7	0	3	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0
大正11年	第６巻第14号12月号	♯	1	0	5	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1	0

5.　時代が求めた主婦像と期待される役割

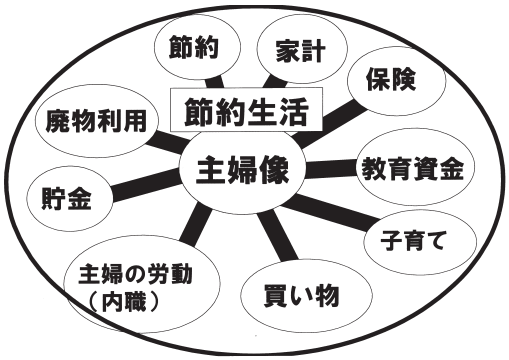


図２．時代が求めた主婦像

上記の「４．雑誌『主婦之友』における主婦に関する掲載記事数の変化」より，大正時代に求められた主婦像は廃物利用を行い，節約した生活を送り，家計をやり繰りし，貯金を行い，内職を行い，経済的に買い物をして，教育資金や保険に関して知識をもつ衣・食・住にわたって関心があり知恵をもつことが主婦として期待されていたことが分かる。

大正時代に求められた主婦像を，記事数の変化から得られた10項目に着目し，記事内容の分析を通して具体的に時代が理想とした主婦像について以下に述べて行く。

(1) 大正時代中期の廃物利用

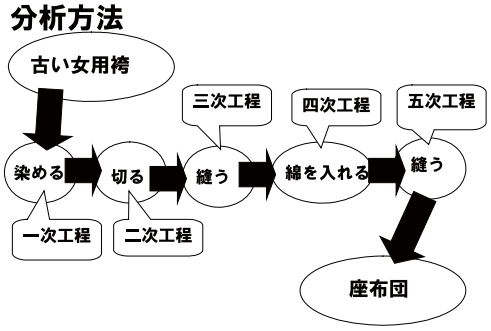


図３．廃物利用の分析

廃物利用では，分析対象記事として大正６年（1917年）第１巻第５号７月号『家庭重宝　廃物利用一百種』[7] を使用し，分析方法は衣・食・住の三分野に記事を分類し，さらに題名・第一次工程から第六次工程まで六段階に分けて工程を分類し，出来上がった物を記入した。以下はこの方法で作成された衣・食・住の廃物利用分類表である。

表２．①衣の廃物利用分類表

題名	第一次工程	第二次工程	第三次工程	第四次工程	第五次工程	出来上がるもの
古浴衣で蒲団	絞る	染める	縫う			蒲団
古浴衣で寝冷え知らず	切る	襦袢を縫う	股下を縫う	付紐をつける		寝冷え知らず
古浴衣で裏地	染める					着物の裏地
古シャツで下襦袢	切る	襟を縫う				女の下襦袢
古メリヤスで足袋底	切る	縫う				足袋底
古メリヤスの利用法	切る	縫う				子供用シャツや股引に作りかえる
男用のシャツを女用に	袖の先を切る	縫う				女用シャツ
古メリヤスをおしめに	切る					おしめ
ワイシャツで子供前掛け	切る	縫う				子供前掛け
カラ・カウスで荷札	洗う	切る				荷札
古いチョッキの利用	切る	綿を入れる	縫う			冬用の下着になる
古洋服の利用	切る	縫う				子供用洋服または下駄の鼻緒・足袋・足袋カバー
古洋服で座布団	洗う	継ぎ合わせる	縫う			座布団
古ネクタイで座布団	洗う	継ぎ合わせる	縫う			座布団
古半襟で長襦袢	継ぎ合わせる	縫う				長襦袢
古半襟で帯留め	半分に切る	山ははぎに縫う	細かくくける			帯留め
古半襟で袋物	切る	縫う				袋
古メリンスでハタキ	縛る	切る				はたき
古メリンスで綿代用	ちぎる	綿の間に挟む	縫う			座布団の綿
古い手柄で座布団	洗う	継ぎ合わせる	縫う			座布団
古リボンで手提袋	切る	継ぎ合わせる	縫う	千鳥がけ	裏地にメリンスを縫う	手提げ袋
古リボンで帯留	くける					帯留め
古リボンでがま口	切る	縫う				がま口
飾り糸で羽織の紐	編む					羽織の紐
古靴下で雑巾さし	ほどく					雑巾さし
古靴下で靴雑巾	切る	縫う	ぼろを入れる	縫う		靴雑巾
古足袋で足袋のつぎ	切る	縫う				足袋の繕い
古い足袋で袋物	切る	縫う				袋
古い女袴で裾廻し	切る	縫う				裾廻し
古い女袴で座布団	染める	切る	縫う	綿を入れる	縫う	座布団
裾廻しを女の着物裏に	継ぎ合わせる	縫う				着物裏
古靴下の編みかへ	ほどく	編む				靴下

衣分野では，ほとんどが第三次工程までで出来上がるものが多いことが明らかとなった。各工程では，切る・縫う・染める・編むなど簡単な作業が多く見られた。また，浴衣や半襟など着物から廃物利用を行うものが多く見られた。出来上がった物に関しては，座布団に作り変えるものが多く見られた。

このようなことから，衣分野の廃物利用では，第三次工程までで出来上がり，どれも簡単に手を加えて出来上がるものが多い傾向にあると考えられる。

資料①

表２．②食の廃物利用分類表

題名	第一次工程	第二次工程	第三次工程	第四次工程	第五次工程	第六次工程	出来上がるもの
古沢庵の食べ方	刻む	油でいためる	醤油・砂糖を加える				炒め物
味の悪い沢庵の利用	切る	水に浸ける	煮汁で煮る				煮物
キャベツの芯の漬物	糠味噌につける						漬物
かぼちゃの種を炒って	洗う	乾かす	炒る				炒る
すいかの皮の漬物	糠味噌につける						漬物
すいかの皮を化粧料	水気のあるほうで顔をこする						化粧水
蕗の葉の和へ物	洗う	ゆでる	切る	味付け			和え物
残り御飯で糊を	水に貯める	糊袋に入れる	揉む				糊
残り御飯で団子	洗う	水を切る	メリケン粉をいれて混ぜる	水をさしてねる	ゆでる	味付け	団子
残り御飯で菓子代わり	乾かす	炒る	味付け				お菓子代わり
魚の骨でスープ	水を入れる	煮る	味付け				スープ
鶏の骨でスープ	水を入れる	煮る	味付け				スープ
鳥骨と野菜の煮込み	切る	煮る	味付け				スープ
茄子の蔕の利用	縦に切る	干す	煮る				煮物
茄子の葉を漬物に	葉を取る	干す	漬ける				漬物
米の研ぎ汁から糊	煮る						糊
お茶殻で御飯	御飯と炊く						炊き込みご飯
お茶殻で枕の芯	干す	枕の芯に入れる					枕の芯
蜜柑の皮で蚊遣り	干す	焚く					蚊取り線香
里芋の茹で汁で張物							張物
うどんの茹で汁で髪洗い							洗濯水
筍の茹で汁で洗濯							
腐った牛乳の使用	靴につける	磨く					洗顔または靴磨き

表２から，食分野においては，第三次工程までが多く，どれも煮る・炒めるといった調理方法が多く見られる。また，残り御飯や野菜を廃物利用するものが多く，食べ物を捨てることなく使っていることが顕著に示されている。

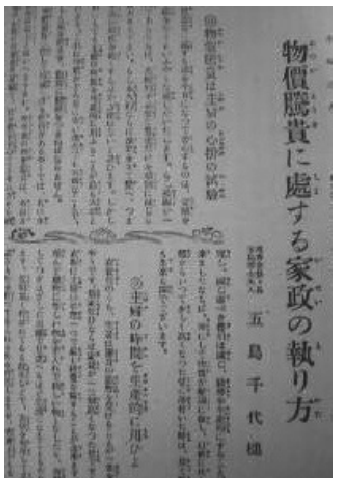
表３．③住の廃物利用分類表

題名	第一次工程	第二次工程	第三次工程	第四次工程	第五次工程	出来上がるもの
粉炭で臭気止め	便所にまく					臭気止め
朝顔の葉で虫予防	葉をとる	もむ	便所に入れる			虫予防
古い歯磨楊枝の利用						靴磨きに使う
琴三味線の廃れ糸	結ぶ					箒やハタキかけ
古い下駄の利用	割る					風呂場の焚物
古筆の軸の利用	切る	釘にかける	打つ			衣類・手ぬぐいかけ
菓子折の利用						整理箱
蜜柑籠の利用	紙を貼る					紙くず籠
古名刺の利用						メモ用紙
古新聞を焚附に	裂く					焚きつけにする
古い五月幟の利用	水に浸す	洗濯する	洗い張り			帯の芯
絵袋の利用	切る	縫う				子供の人形服
古状袋の利用	外側をはがす	綴じる				外側は反古紙・内側は色紙
マッチ箱の利用	箱を張り合わせる	紙を貼る	こよりをつける			箪笥
カレンダーの利用						余白に予定を書く
すき毛の利用	洗濯ソーダを入れた熱湯を注ぐ	浸す				再び使用できるすき毛
石油缶で冷蔵庫	ふたを切る	縄をつける				冷蔵庫
古ハガキの利用	切る	石油に浸す	しまう			焚きつけにする
煎じ薬の出し殻	干す	袋に入れる	沸かす			入浴剤
折れ針で鏝を作る	集める	鍛冶屋に頼む				鏝
石鹸の屑の利用	切る	熱湯に入れる	沸騰させる			洗濯汁
古新聞をたたみの下敷き	畳の下にしまう					畳の下敷き
古バケツの利用	穴に綿をつめる					バケツ
貝殻を鶏の餌に	砕く	まぜる				鶏の餌
卵の殻の利用	砕く	瓶に入れる	水を入れる	振る		瓶の掃除
	砕く	野菜の根元に置く				肥料
新聞の帯封の利用	よる					かんぜより
古い水引の利用	はなす	つなぎ合わせる	巻く			荷造り用の糸
古雑誌の利用	はがす	綴じる				画帳
墨屑の利用	壺に入れる	水をさす				墨汁
古団扇の利用	紙を貼る	繕う				台所用団扇
古い雨傘の利用	貼る					傘
古箒の利用	切る	穴を開ける				火吹き竹
蜜柑箱の利用	紙を貼る	口絵を張る				玩具箱
竹の皮でたわし	重ねる	くくる				たわし
竹の皮で下駄の鼻緒	織る					鼻緒
空瓶の利用	逆さにする	花壇に埋める				花壇の飾り
空瓶で種入れ	洗う	干す				種入れ
粉炭でタドン	赤土と粘土と粉炭を混ぜる	布海苔を溶かした水を混ぜる	固める	乾燥		タドン
蝋燭の屑の利用	溶かす	こよりにしみ込ませる				蝋燭
古靴でスリッパ	切る					スリッパ
急須の利用	うどん粉と卵を混ぜる	ひびに塗る				急須の再利用
皮手袋で指輪	洗う	切る				裁縫用指輪
古土瓶を火消し壺に	布海苔を溶く	土とねる	土瓶の口につめる			火消し壺
ペン先で鉄瓶敷	針金でくくる	はさむ	縛る	組み広げる	針金をとめる	敷物

住分野では，様々な日用品を廃物利用に使われていることが明らかとなった。第一次工程で出来る簡単な物から，第五次工程まで出来る物まで，工程は出来上がるものや廃物利用に使用されるものによって異なることが明らかとなった。出来上がるものの中には，日用品に作り変えるものから「臭気止め」[8] のように衛生に関するものまで様々な工夫が見られる。

(2)大正時代中期の節約

大正時代中期は物価騰貴によって困窮した生活を送っていた。そこで，家庭では節約を意識した生活を送るようになっている。記事分析により，節約には物の節約・お金の節約・時間の節約の三つがあることが明らかとなった。この三つの節約を衣・食・住の三分野にわたって行うことが当時の節約だったと考えられる。また，記事の文中（資料②）には廃物利用よりも節約利用を行うことで，物や時間の価値を見極めることや，「物は物としての価値を，工夫し研有して極限まで発揮する」[9] といった特徴が見られた。



資料②

(3)大正時代中期の家計

大正時代中期の家計に関しては大正 6 年に新中間層の家計に関する記事（資料③）が集中して見られた。記事内容によると，当時の収入は最低十六円から最高六十七円であり，職業としては小学校教師や官吏・軍人など10種類の職業が見られた。これらの内容から得られた特徴は，主婦が内職を行って家計を助けていること，どの世帯も貯金を毎月出来るように生活していること，節約する生活意識を持ち，毎日切り詰めて生活している，という生活姿勢が奨励された。

資料③

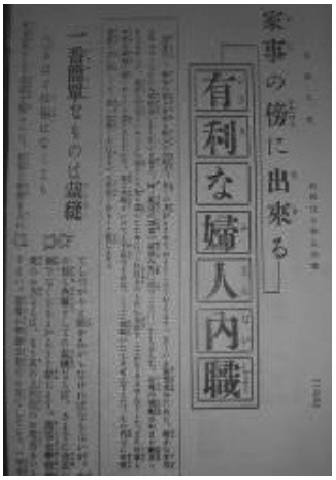
(4)大正時代中期の貯金

大正時代中期の貯金に関しては，以前は「日本の主婦は家庭の能率が低い」[10]（資料④）と批判されていたが，そのような生活を改善するために家庭の中の無駄を省き改良した生活を送ることや，欧米の戦時下の生活の姿勢を見本とする生活を送ることが重視された。さらに，家庭の中で主婦が行うべきこととして食の研究を行い栄養・経済知識をつけて節約すること，主婦が働いて貯金を貯めること，貯金の方法として夫の給料から天引きすることや，債権の売買で収入を増やす，といった行動を行うことでより効率的に貯金ができるようになることが奨励されていたことが明らかとなった。主婦がこのような行動をとることによって貯金ができるようになり，貯金をすることで子供の教育資金や夫婦の老後の生活費に使用する目的を果たしていたことが伺われる。

(5)大正時代中期の主婦の内職

大正時代中期の主婦の内職に関しては，以前は家庭に入ったら夫の収入で生活することが一般的であったが，社会の変化や科学技術の導入による家事労働の軽減，またそれに伴って家事労働の軽減により余暇が発生し，余暇を有効に活用することによって「婦人といへども一家の収入を増し，一家の生活を助ける」[11]（資料⑤）必要が生じたことや女性の経済的独立を果たすためにも主婦の内職は広がっていったことが明らかとなった。主な主婦の内職はミシンなどの裁縫に関する職が多く，また主婦の内職の特徴として腰掛程度に一時的に従事する婦人が多く，試験を受けて免許をもらう職業から，尋常小学校卒業程度

資料④



資料⑤

まで様々な職業が存在すること，内職は婦人の職業としてふさわしいと評価されていたこと，主婦の労働が家庭の収入の助けになること等が強調された。

(6)大正時代中期の買い物

大正時代中期の買い物に関しては，以前は「出入り商人」[12] から購入する方法だったが，質素で倹約する生活が奨励され，イギリスの上流婦人でも自分で買い物に行くという記事を紹介することで，主婦が外に買い物に行くという買い物の仕方になっていったことが明らかとなった。これらの特徴として，良い品質の食材を得ることができ，安く品物を購入することができ，買い物をするために出かけるのではなく，出かけたついでに買い物をすることで合理的で節約した生活を送ることができる，という特徴がみられた。

(7)大正時代中期の教育資金・保険

大正時代中期の教育資金・保険に関しては，「大正時代中期の貯金」を受けて，貯金を意識した節約生活を送ることで子供の教育資金に使用する目的があったことが明らかとなった。子供の教育資金のために貯金を行う背景として，俸給生活者になることで夫は家庭から離れた場所で働くようになり，父親不在の家庭環境になったことで母親が子供の教育を受け持つようになったことから，子供に良い教育を受けさせたいという意識から教育資金を貯金する生活を送っていた。また，災害に備える意識が芽生えたことから，保険に関する関心も高くなる傾向がみられた。

(8)大正時代中期の衣

大正時代中期の衣に関しては，布の節約・布の代用品・廃物利用の意識が高くなったことから，記事内容では布の寸法を小さくして衣服を仕立てること，後で帯や衣服のすその部分にしようできるように工夫すること，男物の衣服を女物や子ども用に作り変える工夫や一着で二通りの着方ができるように仕立てる工夫等がみられた。

(9)大正時代中期の食

大正時代中期の食に関しては，以前は一日に三回煮炊きをする生活だったが，ドイツでは食事を減らしてでも貯金を行う記事を紹介することで日本の食生活を変えないと貯金が出来ない，という考えにつなげていることが明らかとなった。そして，貯金を行うために白米ではなく安い玄米を食べること，一日三食を二食に減らすこと，一日二回の煮炊きに改善することを奨励していることが明らかとなった。これらの改善を行うことで貯金ができ，煮炊きを少なくすることで時間の余裕が生じ，粗食になれておくことで戦時に備えることにつながる等の工夫がみられた。

(10)大正時代中期の住

大正時代中期の住では，従来の日本家屋は家族よりもお客様を本位にした間取りが多く，板敷きと縁側が多いことが特徴であった。このような従来の日本家屋は掃除が大変であり，女中を雇わなければいけなかった。しかし，女中を雇うことは不経済で時間の無駄だと批判されていた。これらを改善するためには，記事内容分析によると窓ガラスを使用し雨戸を少なくすること，縁側を少なく建てること，北側ではなく南側に台所を配置することで衛生管理に努めることが改善方法として挙げられる。そして，改善することによって開け閉めに便利であり，女中を雇う必要が無くなり，掃除の手間を省き，時間の余裕が生じるため，他の労働が出来る，といった利点がみられた。

6.　まとめ

大正時代は物価騰貴の時代であり，戦争や社会の変化に伴い科学技術の導入による発展や，俸給生活者が発生し，新中間層が誕生した時代であった。

このような時代の中で，新中間層の主婦は様々な工夫を行って生活を送っていることが明らかとなった。

大正時代中期では，科学技術の発達による家事労働の軽減によって余暇が発生した。そのような中

で求められる主婦像とは，物価騰貴による生活困窮に対処するために廃物利用を行い，内職を行って家計を助け，貯金をするために節約した生活を送るように工夫することであった。廃物利用に関しては，簡単に出来るものが多く，日常生活のなかで生み出される知恵を生かしていることが特徴として考えられる。また，廃物利用を行うことで少しでも出費を抑え，家計を節約していたと考えられる。内職に関しても，主婦が家計を助けて貯金を行う目的があったことが明らかとなった。

余暇の発生による時間を有効に労働に充てるほかに，物・お金を節約し，合理的に使うように衣・食・住も工夫して改良していた。衣服では布を節約して作りかえる工夫や，一着で二通り着る仕立て方は合理的である。食に関しては，煮炊きを減らし，主婦の栄養知識や経済的な買い物を行うことで合理的な食事を勧める記事が多く見られた。住に関しては，住宅を合理的に改善することで女中を雇う手間を省き，掃除を行いやすく，生活するために便利に工夫することが特徴として考えられる。

これらは，子どもの教育資金や老後の生活費のための貯金が目的であり，主婦が工夫し，主体となった合理的で節約した生活であると考えられる。

今後さらに恐慌下の主婦の創意工夫を明らかにし，その時代が理想とした主婦像を追究することが課題である。

参考資料：『主婦之友』主婦の友社，1917

主婦：第1巻第1号3月号4/33,第1巻第3号5月号4/38,第2巻第10号10月号7/52,第3巻第7号7月号4/47，第4巻第1号1月号6/44第4巻第9号9月号8/52，第5巻第11号11月号5/53，第6巻第1号1月1日号4/53，第6巻第4号2月15日号4/50，第6巻第7号5月号7/59，第6巻第12号10月号8/61，第6巻第13号11月号4/52
女中：第3巻第7号7月号4/47，第5巻第12号12月号3/45
廃物利用：第１巻第5号7月号2/70，第1巻第7号9月号2/38,第2巻第6号6月号2/32，第2巻第9号9月号2/31
節約：第1巻第5号7月号3/70，第1巻第8号10月号2/38，第1巻第7号9月号2/56,第1巻第10号12月号3/43，第2巻第1号1月号2/58，第2巻第5号5月号5/36，第2巻第6号6月号2/32，第2巻第7号7月号2/34，第2巻第10号10月号2/52，第3巻第9号9月号2/43，第3巻第10号10月号2/39，第3巻第12号12月号5/42，第6巻第12号10月号2/61，第6巻第13号11月号3/52
家計：第1巻第3号5月号3/33，第1巻第2号4月号5/37,第1巻第3号5月号5/38，第1巻第4号6月号5/40，第1巻第5号7月号10/70，第1巻第6号8月号4/38，第1巻第7号9月号5/38，第1巻第8号10号10/56，第2巻第2号2月号3/37，第2巻第5号5月号3/36，第2巻第12号12月号3/40
貯金：第1巻第5号7月号9/70，第1巻第9号11月号3/35，第1巻第10号12月号2/43，第2巻第7号7月号3/34
内職：第1巻第4号6月号2/40，第1巻第5号7月号9/70，第1巻第8号10月号9/56，第1巻第10号12月号3/43，第3巻第3号3月号12/33，第2巻第7号7月号5/34，第2巻第9号9月号6/31，第2巻第10号10月号2/52，第2巻第12号12月号3/40，第3巻第2号2月号2/39，第3巻第4号4月号2/48，第3巻第5号5月号7/39，第3巻第7号7月号6/47，第3巻第11号11月号5/39，第4巻第3号3月号2/35，第4巻第3号3月号2/35,第5巻第1号1月号3/45
買い物：第1巻第5号7月号2/70,第1巻第8号10月号2/56,第2巻第5号5月号2/36
教育資金：第2巻第2号2月号1/37
保険：第6巻第3巻2月1日号1/49
衣：第1巻第3号5月号2/38,第1巻第6号8月号2/38,第1巻第7号9月号2/38,第1巻第8号10月号2/56第2巻第2号2/37,2月号第3巻第7号7月号2/47,第3巻第12号12月号2/42,第4巻第5号5月号2/35,第4巻第７号7月号2/48,第4巻第8号8月号3/38,第4巻第10号10月号2/52,第4巻第11号11月号3/41,第5巻第11号11月号3/53,第6巻第3号2月1日号2/49
食：第1巻第9号11月号2/35,第1巻第10号12月号2/43,第2巻第5号5月号4/36,第2巻第7号7月号2/34
住：第1巻第10号12月号4/43,第2巻第5号5月号2/36,第4巻第2号2月号2/36,第4巻第７号7月号2/48,第4巻第10号10月号2/52第5巻第5号5月号4/43,第5巻第11号11月号2/53,第6巻第6号4月号2/58,第6巻第8号6月号2/58,第6巻第12号10月号2/61,第6巻第13号11月号2/52

注

１）～４）南博社会心理研究所編『大正文化』，勁草書房，東京，1965.
５）田島彰子・夫馬佳代子・杉原利治「雑誌『主婦の友―廃物利用五百種―』で用いられた統制下の生活技術」岐阜大学教育学部研究報告　人文科学　第57巻　第１号，2008.
６）（財）石川文化事業財団お茶の水図書館『カラー復刻『主婦之友』大正期総目次』主婦の友社，東京，2006.
７）第１巻　第５号　７月号
８）第１巻　第５号　７月号
９）第２巻　第５号　５月号
10）第１巻　第10号　12月号
11）第１巻　第８号　10月号
12）第１巻　第８号　10月号